

天命を反転する教育：枠組みの再構築へ

荒川 麻里（筑波大学／教育制度学）

死なない子供、荒川修作

- ◆ 種別：DVD（ドキュメンタリー）
- ◆ 監督：山岡信貴
- ◆ 製作年：2010 年
- ◆ 製作国：日本
- ◆ 発売元：リタピクチャル
- ◆ 販売元：アップリンク
- ◆ 時間：本編 80 分＋特典映像 41 分
- ◆ 音声／字幕：日本語



© 2010 RTAPIKCAR, INC.

あらすじ

荒川修作（あらかわ しゅうさく、1936 年 7 月 6 日 - 2010 年 5 月 19 日）。自身のウェブサイト“ARCHITECTURAL BODY”（<http://www.architectural-body.com/>）では、コーデノロジスト（芸術、哲学、科学の総合に向かい、その実践を推し進める創造家）と称している。「人間は死なない」と断言したその人物と、マドリン・ギンズとの合作の一つ、死なないための家である「三鷹天命反転住宅 In Memory of Helen Keller」に住む人々の記録である。

シーン再現

< 荒川修作の語り（Chapter 6）より > 何一つとしてサイエンスができていない。生命に対して。だからそんなもん、生命のことなんておおよそ何も知らない。何が生きて、何が死んでるかも知らないんだよ。それなのに、21 世紀はね「すべてのことを知っちゃったんです」なんて、くっだらなことを言ってるんだから。

…私達が何を持っているかということがわかったら、みんなものすごいことになる。これは、どんなにコンピューターがすごくなっても、どんなにロボティック・サイエンスがすごくなっても、作れない。そんなすごいものを、僕たちは与えられてるのに。これを無視して、いいですか、自動車道路が立派で人間の歩くところはこんなとこなんだよ。どれぐらい間違ってるか知ってる？ …徹底的に間違ってるんだよ。人間の生き方は。

Chapter

1. プロローグ／1'08
2. 人間になるために／10'04
3. 人の使用法／5'00
4. アーティスト荒川修作のこと／5'00
5. 住人のこと：続き／6'52
6. 有機体一人間／7'52
7. 言葉が壊した世界／9'36
8. 無数の知覚 無数のあなた／7'49
9. 生命製造装置／7'32
10. ありふれたビッグバン／9'45
11. 死なない／6'52
12. エピローグ／1'58

※チャプタータイトルは、一部、内容がわかるように筆者が補った。



荒川修作を知らない人は、この作品を観て、氏の過激かつ繊細で独特な語り口に、まず度肝を抜かれることだろう。例えば、特典映像の講演記録には、次のようなくだりがある。「まったく冗談の世界に生きてるんだ。可哀そうに。うんこするだろ。あのうんこよりひどいんだ。うんこはものすごい臭いがしたりするだろ。あのぐらいのことやってみろ、君たち。まず、うんこみたいになるんだ早く。そうすれば、お前が何者であるかがわかる。何を持っているか…」。

荒川氏は、30代後半から約20年もの間、ニューヨークにほど近い Croton-on-Hudson で、生後3か月までの赤ちゃんの観察を続けた。人間にとって「動く」とはどれほどのことか、徹底的に勉強したという。言うなれば、「赤ちゃん学」の先駆者である。「赤ちゃんは足をバタバタさせながら、見て、考えているのだ」という氏の発言は、最新の研究成果を先取りし、既にそれを乗り越えているかのようだ。

本作品で取り上げられた「三鷹天命反転住宅」も、こうした観察結果に基づいている。砂漠のように波打つ床、球形の部屋、わざわざ足元に設置された照明スイッチなどが、住む人の体（有機体）に「動き」を作り出し、環境に変化をもたらす。一つ一つの部屋は細胞であり、そこに動きがなければ、この作品自体がつぶれてしまう。荒川氏は語る。「僕とそっくりなやつが一人だけいたんだ、歴史に。レオナルド・ダ・ヴィンチってやつだ。行き着いたところは、彼も体だったんだ、やっぱり」(Chapter8)。

荒川氏の決定的な体験は、戦時中、町医者助手をしていた5歳の頃。同年の女の子の死にゆく体を抱きしめながら、「現実を変えられる」との確信に至る。その後、国語の本を読むなどの学校の勉強はできなくなったという荒川氏の、教育に対する批判は辛辣だ。「ものすごい力を僕らは持っているのに、使わないんだ。さらに教育なんかくだらないことをやって、使うな！ 使うな！ 使うな！ 使うな！ 毎日、使うなって」(講演録より)。教育によって調教された有機体を活性化し、奪われた力を取り戻す挑戦。それは荒川修作にとっての生きること、歩くこと、または建築することであり、「建築する身体」(Architectural Body) というキーワードに端的に表れている。

時間と空間…この枠組みにより、「すべての大切なものを全部切られた」と荒川氏は言う。教育制度は、時間と空間の枠組みにより規定される。それにより、例えば国家の枠を超えることが困難となる。教育学はこれまで、子どもから多くを学んできた。しかし、教育制度学はその努力を十分に果してきたであろうか。時空を飛び越える子どもたちの創造力を、制度設計に生かす取り組みが求められる。

どこまでが「私」、どこからが「あなた」？

Information

※ 右頁写真は「三鷹天命反転住宅」website より

URL: <http://www.architectural-body.com/mitaka/index.html> (accessed 2013-11-16)

【参考文献】塚原史『荒川修作の軌跡と奇跡』NTT 出版株式会社、2009 年